

Case 1

職員の水痘発症を契機にマニュアル作り 感染症ごとに職員の対応チャートを明示

苫小牧市民薬局（北海道・苫小牧市）



苫小牧市民薬局と、取締役の木村春樹薬局長

薬局の中には、感染対策に力を入れるところも増えてきた。苫小牧市民薬局では2011年3月に「感染対策マニュアル」を作成した。「薬剤師だけでなく事務職員も含めたスタッフ全員に感染対策の重要性を理解してもらうことと、いざというときに焦らず対応できるようにしたかったからだ」と薬局長の木村春樹氏は語る。A4版15ページとコンパクトなマニュアルの中には、日常の感染対策のノウハウに加え、職員に感染者が出た時の緊急対応のフローチャートを明示しているのが大きな特徴だ。

実は、木村氏がマニュアルを作成したのは、薬局内に水痘に感染した薬剤師が出たことがきっかけだったという。「その時点では他の職員もキャリアになっている可能性があり、患者さんや他のスタッフに感染を広げないためにはどう対処すれば良

いのかと困り果てた。結局他に感染者は出ず事なきを得たが、日ごろの感染対策と、職員が感染した時の対応を明確にしておく必要があると思った」と木村氏は振り返る。

マニュアルでは、まずスタッフが理解しておくべき基本として、スタンダードプリコーションの考え方を紹介。その上で、正しい手洗いや手指消毒、うがい、マスクの付け方など、日常に必要な具体的な手技を図解入りでまとめている。

それに続いて記載されているのが、麻疹や水痘、インフルエンザなど、日常的に接する機会がある16の主な感染症についての情報だ。病原体、潜伏期間、感染者が感染性を持つ時期、感染経路、対策、予防策が簡潔に記されている。「これらを示すことで、職員自身が何に気をつけるべきか判断しやすくなる」（木村氏）。

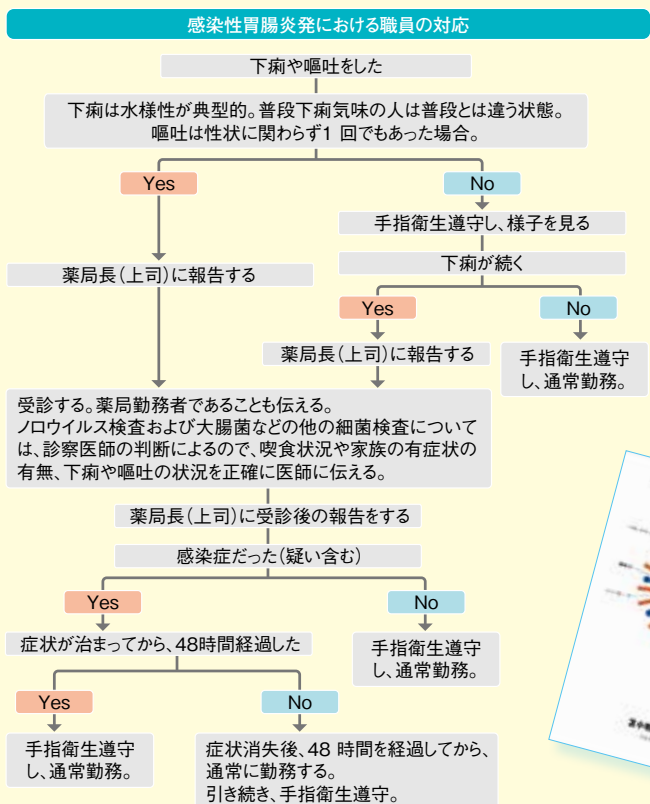
同薬局のマニュアルの特徴である具体的なフローチャートの一例を図1に示した。図1は感染性胃腸炎を職員が発症したときの対応だが、こういった症状があったときに何をすればよいかが明確だ。「一度職員のコンセンサスを得てマニュアル化してあるため、緊急時もスムーズに対処できる」と木村氏。またマニュアルでは、同じ疾病の患者さんに対する対応も合わせて示してありわかりやすい。

「対応のマニュアル化だけでなく、感染対策用の設備や道具を整えることも大切だ。道具自体が役立つのはもちろ

ろん、それらを導入した意図をスタッフが認識することで、より意識的に感染対策に取り組める効果もある」と木村氏。例えば苫小牧市民薬局では手洗後の手指乾燥に温風乾燥機を採用していたが、菌の飛散を防ぐためにペーパータオルに変更した。同時に、ゴミ箱も足ペダルで開閉する蓋付きのタイプに変更したという。

「こうした感染対策や患者さんへの対応は事務職員にも同様に理解してもらうことも肝要だ。また、6年制の薬学教育になり、感染制御の厳しい病院実習を経験した薬剤師にとっては、感染対策が常識になっている。実習生の受け入れや、新人薬剤師の採用の面でもしっかりした感染対策を整えておくことが必要だろう」と木村氏は考えている。

図1 ● 感染に対する対応のフローチャート（抜粋）



感染性胃腸炎発症患者の対応

- A) サージカルマスクの着用と、対応後の手洗い(石けんと流水)
- B) 嘔吐物の処理:サージカルマスクとゴム手・ビニールエプロンを装着。嘔吐物は、ビニール袋に入れ、密封し所定のゴミ箱に捨てる。おう吐物安全処理キットまたは次亜塩素酸Naにより処理する。
- C) 処理後の手洗い実施(流水と石けん)

